経営比較分析表（平成30年度決算）

佐賀県　嬉野市

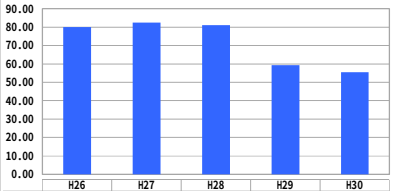
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	該当数値なし	26.40	91.91	2,910

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
26,292	126.41	207.99
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
6,888	3.07	2,243.65

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

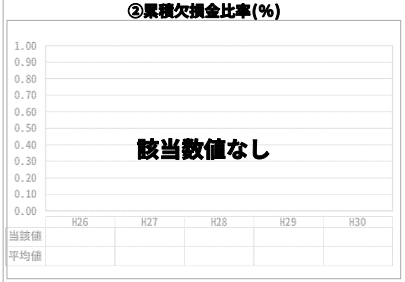
1．経営の健全性・効率性

①収益的収支比率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	80.05	82.54	81.05	59.40	55.58
平均値					

②累積欠損金比率(%)



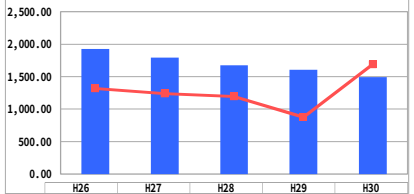
	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

③流動比率(%)

	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

④企業債残高対事業規模比率(%)

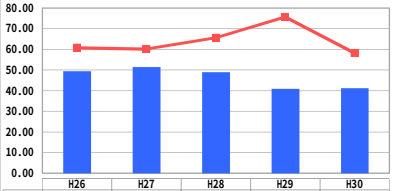
【682.78】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	1,926.79	1,793.28	1,679.66	1,606.46	1,496.56
平均値	1,315.67	1,240.16	1,193.49	876.19	1,689.65

⑤経費回収率(%)

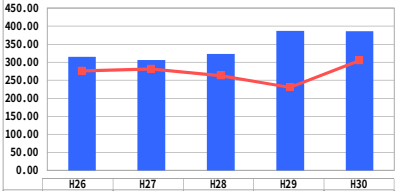
【100.91】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	49.47	51.39	48.98	40.85	41.23
平均値	60.78	60.17	65.57	75.70	58.12

⑥汚水処理原価(円)

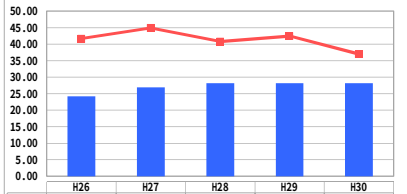
【136.86】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	314.78	306.54	322.90	387.06	386.26
平均値	276.26	281.53	263.04	230.04	304.98

⑦施設利用率(%)

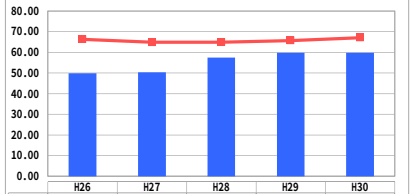
【58.98】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	24.20	26.93	28.17	28.17	28.17
平均値	41.63	44.89	40.75	42.40	36.97

⑧水洗化率(%)

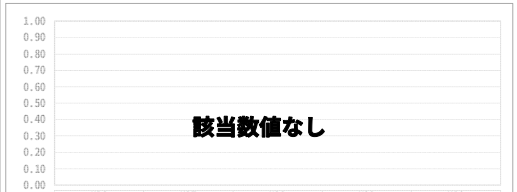
【95.20】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	49.87	50.38	57.57	59.84	59.84
平均値	66.33	64.89	64.97	65.77	67.12

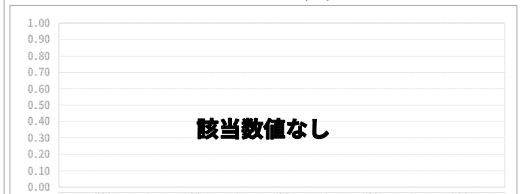
2．老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

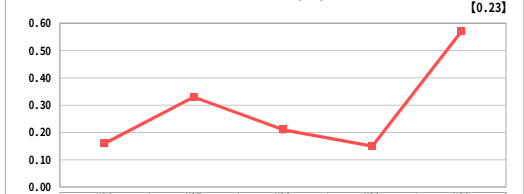
②管渠老朽化率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

③管渠改善率(%)

【0.23】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.16	0.33	0.21	0.15	0.57

※　法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

分析欄

1．経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%未満であり赤字となっている。H30年は前年比-3.82ポイントとさらに減少し、また⑤経費回収率は約41%に留まっている状態で、一般会計繰入金に頼らざるえない現状であり使用料が適切であるか検討しなければならない。

④企業債残高対事業規模比率は年々減少している。H30年度は平均値と比べると、受益者が分散している地理的要因による建設コスト高の為、高い水準にあるが、さらなる改善を進めていく必要がある。

⑤経費回収率は約41%であるが、半分以上が使用料以外（一般会計繰入金）から賄っているのが現状である。使用料が適切であるか見直す必要がある。

⑥汚水処理原価は、受益者が分散している地理的要因により、平均値より高くなっている。接続率の増加や維持管理費の見直しにより、汚水処理原価を低くしていく必要がある。

⑦施設利用率は、受益者が分散している地理的要因により、平均値を大きく下回っている。処理施設の利用状況や規模を考える必要がある。

⑧水洗化率は整備中の事業であるため、平均値と比べると低い水準となっているが、年々微増している。
しかし、大きな変化では無く殆ど横ばいの状態であるため、料金の見直しが無い限り使用料の増加は見込めない。接続数の増加のための取組だけでなく、使用料の見直しも必要である。

2．老朽化の状況について

平成12年より整備を開始しており、管渠等の老朽化はまだ深刻ではないものの、処理施設の修繕が今後見込まれるので、効率的な管理運営に配慮が必要である。

全体総括

全体を見てみると、問題点は使用料に関することが多くなっている。使用料を見直すことによって経費回収率を改善させ、また、新規加入者を増やすことで、施設利用率や水洗化率等の改善を行っていきたい。